



も と は し つ う し ん

本橋通信

第63号
2025年11月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111/メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★

そろそろ2年を迎える「新NISA」の現在地…

皆さまこんにちは。本橋通信第63号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。トーシの日(10/4)にふと思い立ち、新NISAの現在地を考えてみました。もはや「新」でもありませんが、24年1月にリニューアルしてそろそろ二歳。23年12月末に2125万口座、24年12月末には2559万口座、そして25年6月末に2696万口座へ(証券業協会調べ)と、新NISA開始前の23年末比+571万口座と、現在NISAを利用可能な18歳以上の1億人の約1/4が開設済であり、政府が意図する「日本国民の資産形成に欠かせない制度」へと近づきつつある一方、逆に言えば約3/4の方々が未利用という事実。

口座数では好調な増加と言えそうですが…実は24年は買付額ゼロの「未稼働」口座が4割弱、投資対象が幅広い「成長投資枠」内では、24年は買付額の約17%が既に売却済となっていたり…実際の投資行動に踏み出せない/相場の急落で怖くなって売り急いでしまった投資の初心者も一定数いたようです。当初スタート時、年360万円の非課税枠、非課税期間は無期限、生涯投資枠1800万円!と「老後2000万円問題」を解決しうる満点の資産運用口座とも言われましたが…、FAとして日々の実務からちょっとした課題感も抱きます。例えば、現役世代の資産形成期に果敢にリスクを取って長期・積立投資で非課税資産を作り、いよいよ資産を活用する前に債券系やバランスファンドなどの低リスク資産へと、スイッチングしておこうとします。長年の辛抱の結果1800万円が3000万円に膨らんだ株式系の非課税資産を一度に売却すると、再び新たな投資可能枠は1800万円なのですが、年間投資枠は360万円が上限、しかもコレは翌年に復活し、再び非課税枠を満タンにするのに5年(360万×5年)が必要と、オマケに儲かった残り1200万円は特定口座で再運用や日常で使う等々…また異なる意思決定が必要になります。他にも仮にNISA口座に残高がありながら相続が発生した場合、そのまま非課税での相続ができれば…とか、投資家としての終盤戦やスムーズな資産移転という観点で、もっと優しい制度へとグレードアップが待たれます。

こうした課題感は金融庁の2026年度税制改正要望にも記載されています。NISA枠1800万円が満タンになるまで最短でもあと3年あるので、特に前者のNISA内でのスイッチング案は何らかの改正進展を期待です。さらに若年層からシニア層まで全世代参加の「貯蓄から投資へ」運動を指向する中で、世代を超えての生前贈与(特に暦年贈与の非課税枠110万円の活用など)を通じた、18歳未満の未成年口座へつみたて投資枠120万円解禁案も、子ども家庭庁との共同要望項目として記載されています。若い頃から金融リテラシーを携え、長期の資産形成に臨むことには大賛成なのですが、そもそも資産移転の段階で確りと「あげます・もらいます」の生前贈与の契約行為が成立していないとなりません。後々に名義預金ならぬ名義NISAでしょ…なんて税務署から指摘されてしまっは、良かれと思って実行してきたことが

非課税運用どころか、元も子もない嫌な思い出にならぬようにご注意を。

元岸田首相の肝入りでスタートした新NISAなのですが、何と当の岸田氏本人は口座開設はしたけど買付額はゼロという「NISA口座放置投資家」らしいのです…しかも今や高齢者向けのプラチナNISAを提言していたりしますと…、もはや私からは何とも言えない感じが…しなくもないです。



✍️ IFA (Independent Financial Advisor) 本橋の視点より ✍️

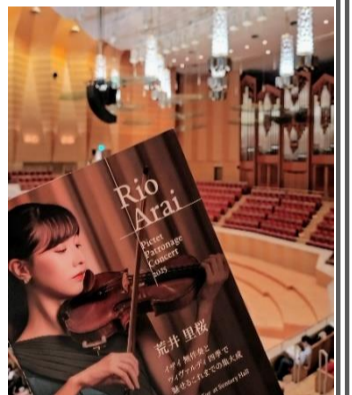
最近「これから、若しくはもう一度、投資や経済についてちゃんと勉強してみたい…」というお声を多く頂くようになりました。昨今、新NISAやイデコの制度改革といった資産運用や将来設計への環境整備、不確実性が高まる世界情勢・経済環境の変化と共に、ご自身やご家族の将来を考える上で、文字通り「おカネ」や無形資産である「人との関わり」といった多様な財産との向き合い方について、キチンと学んだり考えておきたいという意識の高まりかと実感しています。本コーナーにて**資産・将来設計における「一丁目一番地」**となり得るトピックスを時々ご紹介してゆきたいと思います。資産設計をスタートする前に、やっておきたい**「7つの心がまえ」**編。

心がまえ第5弾は**「資産運用の本当の目的を考える」**です。投資や資産運用の本来の役割は「人生の目標達成に必要なお金を手に入れる」ことではないでしょうか…しかし、本来の目標達成のための手段である投資や資産運用自体が、いつの間にか目的に変わっている個人投資家は多いような気がします。例えば資産を殖やすために始めた株式投資が、いつしか自分が気になる会社の株価やチャートを眺め、株主優待が魅力だ、面白そうなビジネスに少しだけ…と、いつの間にか個別銘柄をたくさん保有しているといった投資スタイルも、自分で選んだ銘柄でワクワク気分を実感できる投資家として当然の楽しみです。様々な知見や経験値が高まるこうした投資もある程度は必要です。許容できる範囲(投資額)で大いにトライすべきでしょう。ただ、資産運用の真の目的は、ご自身の人生における目標達成に必要な資産(お金)を作ることだとすると…売り買いを楽しむためのエンターテイメント投資よりも、もっと地味でつまらナイ投資のセオリーや規律のきいた意思決定であったりします。釈迦に説法かも知れませんが、資産運用の成果の9割近くは株式に○%、債券に△%…など「資産配分」で決まるとされます。「どの株を、いつ買うか」ではなく、「どの資産に、どのくらい振り分けるか」、かつ「どのくらいの時間軸で、どの程度の目標資産額を目指してゆくのか」といった、大まかな資産構築の設計図が優先です。とは言え…ムツカシク考える必要はなく、将来的に価値増大の確度が高そうな資産の働きにじっくり任せる発想が○です。

◆編集後記◆

Pictet Patronage Concert 2025

スイスのプライベートバンクであるピクテさんより社会貢献活動の一環として若きアーティストを支援する**Pictet Patronage Project**イベント@サントリホールにご招待頂き、芸術の秋夜のコンサートを楽しみました。同社現支援アーティストとしてのヴァイオリニスト荒井里桜さんは最後のステージです。アーティストとしての技量は勿論、醸し出す華やかさ、トークから滲み出る人間性も素敵な方で、今後も益々ご活躍されること間違いなし！かと



◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいますようお願い致します◆

【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFJ)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客さま専用金融サービス)を経験し、ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。



趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快!)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読?)

お客さまに対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…

本橋FαオフィスWEBサイトは と検索! <https://www.pfa-withyourlife.jp/>

皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp